

That's きっとす 平成 30 年 9 月

ハイイロチョッキリ

秋の自然の人気者と言えどどんぐりですね。数多く実がなり、工作の材料にも、うってつけのどんぐり。寒くなってからの貴重な栄養源として、動物たちからも人気があります。熟すにはまだ早い今の季節、どんぐりの木で起こるできごとについてご紹介しましょう。

9月ごろ山を歩いていると、地面の上には葉っぱがついたコナラのどんぐりの実がたくさん。ゆうべの風で落ちたのでしょうか？そうしている間にもポトポトッ…という音とともに、木の上の方から枝葉のついたどんぐりたちが落ちてきます。不思議なのは、まだ実が青いこと、枝葉が必ず同じくらいの長さで落ちていることです。木の切り口は少しギザギザで、偶然折れたようには見えません。

実はこれ、風の仕業でもなく、誰かに折られたわけでもなく、虫に切り取られた跡なのです。正体は、細長い口を持つハイイロチョッキリ。落ちている実をよく見ると、どんぐりの帽子部分（殻斗と言います）のところに黒いしみのような点があります。この点がストローのような口を突き刺した跡です。メスのハイイロチョッキリはまだ柔らかいコナラの実に穴を開けた後、卵を産みつけ「チョッキリ！」と枝ごと切り落とすのです。（本橋）

